47年振りに京都に帰ってきました

第58回日本薬剤師会学術大会（10月12日（日）、13日（月・祝）於国立京都国際会館）

渉外協賛部門
児玉 賢

（その５）渉外協賛部門　児玉 賢

協賛金を集めるという学会運営の根本の一つを担われ、実績を上げていただきました。今回は協賛部門中心に、ご苦労や思いを書いていただいております。

―協賛部門の役割について教えてください―

本学術大会では、医療や薬学に関連する多くの企業・団体にご協力いただいています。協賛部門では、それらの皆様と薬剤師が共に未来を創るための架け橋となるべく、企画・調整を担ってきました。

今回は、ランチョンセミナー、スイーツセミナー、展示企業の協賛調整を担当しました。セミナーでは、薬剤師の実務と専門性を広くカバーする多様なテーマが揃っています。ご協賛いただいた各企業が、それぞれの視点から時流を捉えた内容を工夫してくださり、来場者の関心や業務領域に応じた学びの場となるよう構成されています。展示企業としては、日本薬科機器協会やJAHISの加盟企業をはじめ、多彩な企業にご出展いただく予定です。初めての出展となる企業もあり、例年にも増して多様な顔ぶれとなっています。会場の構成や来場動線を踏まえた効果的な配置にも工夫を凝らしており、企業ごとに伝えたいポイントや強みがしっかりと来場者に届くよう、ブース配置や同フロアの動線整備も細部まで議論を重ねました。

―協賛部門の運営で特に苦労された部分はどこでしたか？

正直なところ、もっとも大変だったのは「お金を集める」という現実的な部分でした。学会運営には想像以上に多くの費用がかかります。企業や団体にご協賛いただくことは、単なるスポンサーとしての支援を超え、大会の品質や参加者の学びの充実度を支える“根幹”でもあります。その意味でも、一社一社との交渉は真剣勝負でした。

協賛企業の多くはこれまでに学術大会への協賛経験をお持ちで、会場運営や出展ルールにも十分に慣れておられます。一方で、今年初めて本大会にご参加いただく企業もあり、申込方法やスケジュールの確認など、基本的なご案内や個別対応が必要な場面もありました。限られた期間の中で、円滑に調整を進められるよう、事務局とも連携を取りながら準備を進めてまいりました。

―今回の展示は構成について熟考されたと聞いております。
特徴をお聞かせください。―

展示企業の皆様には多方面からご協力いただきました。今回は特に、医療DXやICTをはじめとするデジタル技術の活用や業務効率化に関する出展が目立ち、薬局業務の在り方が大きく変わろうとしている今、その変化を反映したラインナップとなりました。

調剤支援・情報共有・多職種連携・地域包括ケアなど、様々なテーマに対応した展示内容が並び、薬剤師が日常業務で直面する課題に対する具体的なヒントを得られる場として、より実務に根ざした構成を目指しました。

さらに、京都ならではの雰囲気や文化的要素も展示空間に反映させ、参加者が「見て楽しく、学んで役立つ」時間を過ごせるよう準備を進めています。

―参加を検討されている皆様にむけての想いをお聞かせください―

ランチョンセミナー、スイーツセミナー、展示エリアは、単なる情報収集の場ではなく、新しい発見や出会いに繋がる場です。日々の業務に活かせるヒントが、思いがけないところに潜んでいるかもしれません。展示会場では、薬剤師としての視野を広げるきっかけや、産業界との対話を通じた気づきがきっとあるはずです。ぜひ実際に足を運んで、その空気を感じていただければと思います。

今回の大会が、皆様の実践に新たな視点をもたらす時間となれば嬉しく思います。協賛部門一同、皆様と会場でお会いできることを心より楽しみにしております。

―それでは、今回はここまでといたします。引き続き、皆様に学術大会情報をお伝えしていきます―